

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	嬉野市立大野原中学校		
2 所在地	嬉野市嬉野町大字岩屋川内丙720番地		
3 校長名	安 永 秀 樹		
4 学級数 児童生徒数	2学級（複式） 12人	5 実施学年 児童生徒数	1～3年 12人

6 取組のねらい

高齢化が進む社会の中で、相手の立場を考え行動できる、人間性豊かな生徒を育成する。

7 取組の実際

【高齢化社会—三世代みんなが安心して暮らせるまちとは—】

1. 高齢者との交流

多くが三世代同居であるため、祖父母と日常的に接しているが、暮らしやすさや住みやすさの視点で、より多くの高齢者と交流し意見を聞いて、ユニバーサルデザインの意義を学ぶ機会とした。



【グランドゴルフで交流】



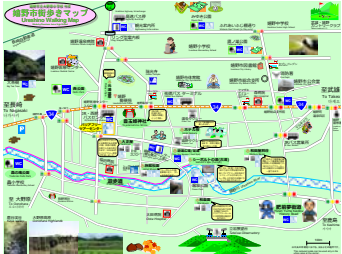
【もちつき会に招待】



【年賀状と手編みのマフラーを送る】

2. 嬉野市社会福祉協議会との連携

今年度で3年目になるユニバーサルデザイン教育に、毎年、市社会福祉協議会からご助言をいただいている。特にサービスの高齢者が、暮らしの中で日常的に感じていることを知り、理解することで、ユニバーサルデザインを取り入れた製品の考案・開発に役立った。



【嬉野街歩きマップの製作（H22～）】



【あったか葉っぱの製作（H21～）】



【温泉に行くのが楽しくなる

バリアフリー施設・緊急電話番号表示 1年かけて50個の手作り あったか葉っぱの完成（県優秀賞）  
日本語・英語・韓国語使用 嬉野高校等多くの助言をもらう 社協を通して、高齢者に贈る

## 【高齢化社会—自分たちにできる地域貢献—】

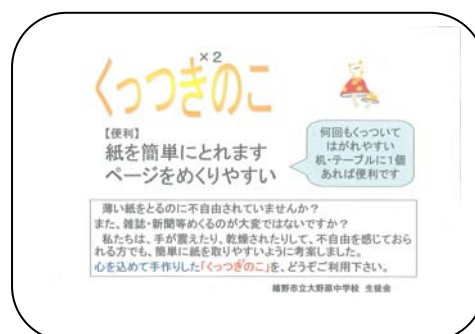
### 1. ユニバーサルデザインの考案と製作

「あったか葉っぱ」「嬉野街歩きマップ」のお礼状を高齢者からいただいた。

震える手で一生懸命寄せ書きをされたということ、市の担当者から聞き、生徒たちは、お礼状への感謝の気持ちと共に、高齢者は筆記用具を持つことが大変なことだということに気付かされた。—文字毎にこめられた思いと書くのにかかった時間をしっかり受けとめ、自分たちに何ができるかを考えた。

そこで、雑誌や新聞・紙を誰もがとりやすくするために、ペットボトルのキャップを利用した「くっつきのコ」を考案し製作した。製作には、特老うれしのや社協の助言をもらい改良した。

200個程製作し、3月に配る予定である。



【くっつきのコ】

## 【高齢化社会—小学生へUDの思いをつなげる—】

### 1. 中学3年生による小学生へのユニバーサルデザイン授業

小学5～6年生にUDの啓発活動をしたいと思い、電子黒板を利用してUDの授業を行った。また、実際にUD体験やクイズを入れ授業をわかりやすくした。



【UDクイズに興味津々】

#### 【ユニバーサルデザイン 授業の流れ】

- ①ユニバーサルデザインって何？
- ②カラーユニバーサルデザインの説明
- ③「あったか葉っぱ」の紹介
- ④身近にあるユニバーサルデザイン

## 8 取組の成果と課題

「ユニバーサルデザインを学んで良かったことは？」との問いに生徒は、「身近にあるユニバーサルデザインを知り、様々な工夫がたくさんあることに気付きました。また、誰もが使いやすいように自分たちで考案し、みんなで製作する楽しさがありました。使った人から喜ばれて嬉しかった。」と答えた。

上記のように、成果としては、高齢化社会が進む社会の一員として、誰もが暮らしやすい社会を実現するために、自分たちでできる活動を考え、実践する力が身についた。また、高齢者から反響を得たことで心のつながりがもて、より深く相手を理解することができ、喜びを共有することができた。

課題は、啓発活動の推進と社会にでて実際に高齢者・障害者と接する体験学習から「ひとにやさしい街づくり」の推進である。

